

2026（令和8）年度  
編入学試験

文学部  
日本語日本文学科

国語

10時00分～11時30分

受験についての注意

試験開始の前に、以下の注意をよく読んでおくこと。

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開かないこと。
2. この冊子の問題本文は**8**ページ、問題は**4**問である。試験開始後、問題を確認し、落丁・乱丁の箇所があるときは手をあげて交換を求めること。
3. 解答用紙はすべて**HBの黒鉛筆**または**シャープペンシル**で記入すること。
4. 試験開始の前に、解答用紙の定められた位置に氏名と受験番号を記入すること。
5. 解答は解答用紙の指定された場所に記入すること。余白、裏面には何も書いてはならない。
6. 筆記用具、受験票以外のものは、かばん等に入れ、机の下に置くこと。
7. 試験時間中に無断で退場することはできない。
8. 終了の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、解答用紙は表を上にして置くこと。この冊子（試験問題）は持ち帰ってよい。



一 次の文章は中尾佐助『花と木の文化史』の第IV章の一部である。これを読んで、あとの設問に答えよ。〔40点〕

自然の花はそのままでも、たいへん美しいものがたくさんある、そう思っている人が多いであろう。ほんとうにそうであらうか？ 自然の中に見いだした一本の美しい花の茎を折り、目を近づけてみよう。そんな花はたいいていすでに他人がよく気づき、栽培化している場合が実はほとんどである。同じ種類の、すでに栽培化されているものと、自然の中から一本折りつつたものとを比較すると、栽培化されたものは交配、雑種化され、より大きな花となり、花色はあざやかに、枝葉は強壮に生長している。単純に比較すると、自然の花より人工の花の方が美しいというのが常識的であろう。だからと言ってもよかろうが、自然の花を栽培化すると、たちまち改良されたものばかりが残り、自然の原種は花屋などでは見ることができなくなってしまう。こんにちの花屋にあふれているさまざまな花の原種をみようとしてみると、それはたいへん困難だけでなく、たとえばバラやチューリップのように、複雑な雑種になっているものでは、その野生原種のすべてをみることはまず不可能である。

それにもかかわらず、野生原種のもつ美しさは人工的雑種以上のものがあるという見方がはっきりと存在している。野生原種の花の美しさは、なによりも野生の「場」、環境に調和して咲いていることである。その花のまわりの空気の湿度、温度、日照、ほかの植物とのからみぐあい、生育ぶりなど、すべてがその地でみる花の美しさに関係している。これはだれにも容易に理解できることだろう。 **X**、こうした野生原種を一カ所に集めて栽培してみると、それはまたそれなりに面白さがある。野生原種は自然のままでもこそ美しいが、栽培してもまた別の美しさも出てくるのだ。

花の野生原種と、その改良栽培種とがいずれが優るかという命題は「スピーシス・オア・ハイブリッド」という論争題目になっている。スピーシスとは野生原種を意味し、ハイブリッドとは（改良種は交配されているので）雑種という意味であ

る。この言葉をつくったのはキングドン・ウオードというイギリスのプラント・ハンターである。彼は前述（Ⅱ章）したように、いわば最後の大プラント・ハンターであったが、野生の美しい花ばなを心ゆくまでみた体験から、野生の花の優れていることを深く感じていた。彼はそれらの種子をイギリスに持ち帰ったのだが、その後これらの種類の改良種がイギリスにできているのを見て、野生の花との比較価値観上の疑問を提出したのである。

私はかつてオランダで開かれたシャクナゲ品種改良会議に出席し、ヒマラヤの野生シャクナゲのスライドを写し、講演した。その後で、「私はハイブリッドよりスピーシスが面白い」と言ったら、たちまち反対を受けた。「お前は最初にスピーシスを見たから、そう言うのだ」と言われたのである。品種改良の専門家と、いわばフィールド・ナチュラリストの私とは、基本的に見方が異なっている。

自然の花の美は自然のまま、その群落の中で、まわりの雰囲気に調和した姿でこそ、その最もよい価値を表現する。同じことは樹木にもあてはまる。庭木は自然のものでなく、あくまで人工のものである。庭木と自然の樹木を較べると、庭木はたいいてい整枝、剪定<sup>せんてい</sup>され、形が整えられている。そしてたいいていの場合に低い木になっている。公園や宮殿の庭のような場合を除いては、普通の民家には大木を植える余地はない。住宅地の狭い庭では、庭木の樹高は屋根の二倍くらいが限度であろう。ところが庭に木を植えると、それが大木になる種類では、いつの間にかものすごい高さに育ってくる。そうなる庭師をよんで、枝を切るか、根本から切り倒すことになる。庭木はその木の自然の生長を許しておくことはできないのである。庭木には常に整枝、剪定がつきものである。

ところが樹木、とくに高木性のもは自然のまま自由に生長して、巨大なものとなればなるほどその樹の固有の性格が出てくるものだ。そうなった美しい樹は自然の中でしか見ることはできない。いわば庭に植えられた庭木は、自然の中でみごとに生長した美しい樹の代用品ともいえよう。

2 樹木の美しさはなんといいても、自然の中にこそあるのだ。

自然のままの花、自然のままの樹木、森林を美しいとする美意識は、最初から人間の本能の中にあつたわけではあるまい。自然の中に深く埋没して生活している原始民族は、まわりの自然の花、自然の森を実利的に評価しても、その美的価値には無関心である。その美学は、実に、高度に発達した文化社会ではじめて実質的に発達できる文化的形成物なのである。それがいま、二十世紀の後半になって、欧米や日本で本格的に形成されようとしているのだ。

最近日本でも自然保護とか緑化という問題が多く、関心を集めるようになってきた。このことはどうもアメリカが大先達のように、具体的には多くの国立公園を設置して、自然保護を組織的に行なってきた。日本では戦後の復興ができてから、やっとその機運が噴き出してきたということになる。自然保護、緑化という問題は、非常に多方面の問題に関連しているので、簡単には論じがたい面があるが、大別して二つのジャンルがあるとみてよいだろう。その一つは実利的、功利的側面である。森林の存在が気候におよぼす影響とか、大気汚染の緩和作用、水質におよぼす影響とか、そうした分野からの価値評価につらなる面である。しかしもう一つ重大なのは、自然と緑の存在が人間の心理におよぼす影響で、自然の美的評価が支柱となっている体系の問題ということになる。いま多く論じられている自然保護論をみると、この二つのジャンルを混同して、意図的な一方的結論に導くものが多いようである。実利的なジャンルは自然科学のうえに立つ論理で組みあげねばならないはずと割り切るべきであろう。これに対して心理的・美的評価は、まったく異なつた方向からなされるものである。自然に対する評価はその人のなう文化全般を背景としてできるので、非常に多くの側面があるが、実は、「森林浴」という言葉には<sup>3</sup>私はいへん感心している。森林の空気の中にはフィトンチッドといわれる成分が発散されていて、殺菌作用があり健康によいなどと、実利性も強調されている。そうした成分がある種の植物からある時期にはたしかに出ているだろう。しかし普通はごく微量で、感覚のするどい状態の人がやっと知ることができる程度である。(しかしまあ、ある場合にはかなり強烈なこともある。私は朝鮮北部の狼林山脈を歩いているとき、森林帯上部でニオイヒバ(俗称)の灌木の間を通り

ぬけようとしたとき、その木の葉から精油分がパツと放出されて香りにつつまれた経験がある。ニオイヒバは朝鮮北部から沿海州方面にあつて、ロシアの探検家の紀行文には、精油分が放出されたとき、マッチをすつたら、あたりが火の海になつたと書いてあつた。嘘かほんとか知らないが、そんな気をおこさせるくらい強烈に匂つたのである。こんなことは例外で、フイトンチッドは殺菌作用より、香水と同じように人間の心理に作用する働きがおもである。森林浴をすすめた本をみると、自然生態系から、植物、花、小鳥、キャンプにいたるまで書かれている。一口にいうとトータルに森を楽しむガイドブックである。自然の森の総合的美学がそこに展開されているといつてよい。

**問 1** 傍線部 1 「ほんとうにそうであろうか」という問いに対しての第一段落での答えを八十字以内（句読点を含む）で答えよ。

**問 2** 空欄 X を補うのに適切な言葉を、次の①～⑤の中から一つ選んで、その番号を書け。

- ① いわば
- ② したがって
- ③ すなわち
- ④ たとえば
- ⑤ ところが

**問 3** 傍線部 2 「樹木の美しさ」とあるが、筆者の考えている最も「美しさ」が際立つ状態はどのようであるか、三十字以上四十文字以内（句読点を含む）で答えよ。

**問 4** 傍線部 3 「私はたいへん感心している」とあるが、その理由を五十字以内（句読点を含む）で書け。

二

次の1～5の文学作品の作者名を、あとのア～コの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を答えよ。〔10点〕

- 1 『雁』      2 『或る女』      3 『風立ちぬ』      4 『仮面の告白』      5 『泥の河』

ア	有島武郎	イ	遠藤周作	ウ	菊池寛	エ	夏目漱石	オ	堀辰雄
カ	三島由紀夫	キ	宮沢賢治	ク	宮本輝	ケ	村上春樹	コ	森鷗外

③ 次の文章を読んで、あとの設問に答えよ。〔40点〕

白河院、鳥羽におはしましける時、北面のものどもに、受領、国へ下るまねさせさせて、御覧あるべしとて、国司には玄蕃頭ひさのりといふものをなして、衣冠いぐわんに衣出きぬいだして、そのほか五位どもには前駆ぜんくさせせけり。おのおの、錦、唐綾を着て、劣らじとしけるほどに、左衛門尉行遠さゑもんじょうゆきとほ、心こに出でたちて、「人にかねて見えなば、目馴れぬべし」とて、御所近かりける人の家に入りて、従者を呼びて、「1やをら、御所の辺にて、見て2来」といひて、参らせてけり。

3無期に見えざりければ、4いかに、かくは遅きにや」と、「辰の時とこそ催しはありしか。さらむ定、午未には5渡らむずらむものを」と思ひて、待ち居たるに、門の方に声して、「6あはれ、ゆゆしかりつるものかな」といへども、「ただ参るものなどぞ」と思ふほどに、「玄蕃頭の国司の姿、をかしかりつるものかな」「藤左衛門殿は錦を着たり」「源兵衛尉は継物を金の文つけて」など語る。

あやしくおぼえて、「やおれ」といへば、この「見て来」といひつる男、うち笑みて、「おほかた、かばかりの見物候はず。Xの祭もことうるはしく、なにもおぼえ候はず。院の御棧敷の前、渡しあひ給ひつるさま、目も心も及び候はず」といふ。「さて、いかに」といへば、「7はやう果て候ひぬ」といふ。「それをば、いかに来て告げぬぞ」といへば、「こはいかなることにか候ふらむ。参りて見て来と候へば、目もたたかず、よくよく見て候ふぞかし」といふ。8おほかたとかくいふにもたらず。

「行遠が進奉不参、かへすがへす奇怪なり。たしかに召し籠めよ」と仰せ下されて、二十日あまり候ひけるほどに、この次第を聞こしめして、笑はせ給ひてぞ、召し籠め、許りて候ひける。9主従ともに、おろかなりけるものかな。

(注) ○北面のものども——院の御所の北面にいて、院中の警護にあたる武士たち。

○受領、国へ下るまねせさせて、御覧あるべし——「受領」は「国司」の中で実際に任国に赴いて実務を行う者のこと。

ここでは、受領が任国に下る際の行列を北面の武士たちに再現させて、白河院が見物しようとしている。

○玄蕃頭——玄蕃寮の長官。玄蕃寮は治部省に属し、僧尼の名籍の管理や、外国使節の送迎・接待などを行う。

○前駆——馬で貴人の先導をすること。

○かねて——(行列が始まるまでに) 前もって。

○目馴れぬべし——見慣れて(飽きられて) しまうだろう。

○催し——召集。

○さらむ定——そうであるからと言っても。

○やおれ——おい。こら。

○進奉——供奉。

○奇怪——けしからぬこと。

問 1 空欄 **X** に入れるのに最も適切な寺社名を、次の中から一つ選んで、記号で書け。

ア 石清水    イ 賀茂    ウ 祇園    エ 住吉    オ 長谷

問 2 傍線部 1 「やをら」、3 「無期に」、8 「おほかた」の意味を記せ。

問 3 傍線部 2 「来」の読みをひらがなで書け。

問4 傍線部4 「いかに、かくは遅きにや」、6 「あはれ、ゆゆしかりつるものかな」、7 「はやう果て候ひぬ」を、それぞれ現代語訳せよ。

問5 傍線部5 「渡らむずらむ」の中から、例にならって助動詞をすべて抜き出せ。

(例) 咲きにけり ↓ に・けり

問6 傍線部9 「主従ともに、おろかなりけるものかな」とあるが、「主」「従」それぞれのどのような点が「おろか」だったのか、簡潔にまとめよ。

**四** 次の1～5の人物の著した作品を、あとのア～コの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を答えよ。〔10点〕

- 1 景戒
- 2 西行
- 3 無住
- 4 新井白石
- 5 松尾芭蕉

- |   |        |   |        |   |        |   |       |   |      |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|-------|---|------|
| ア | 讃岐典侍日記 | イ | 折たく柴の記 | ウ | 野ざらし紀行 | エ | 日本霊異記 | オ | 更級日記 |
| カ | 大和物語   | キ | 竹取物語   | ク | 山家集    | ケ | 沙石集   | コ | 風土記  |